

経営比較分析表

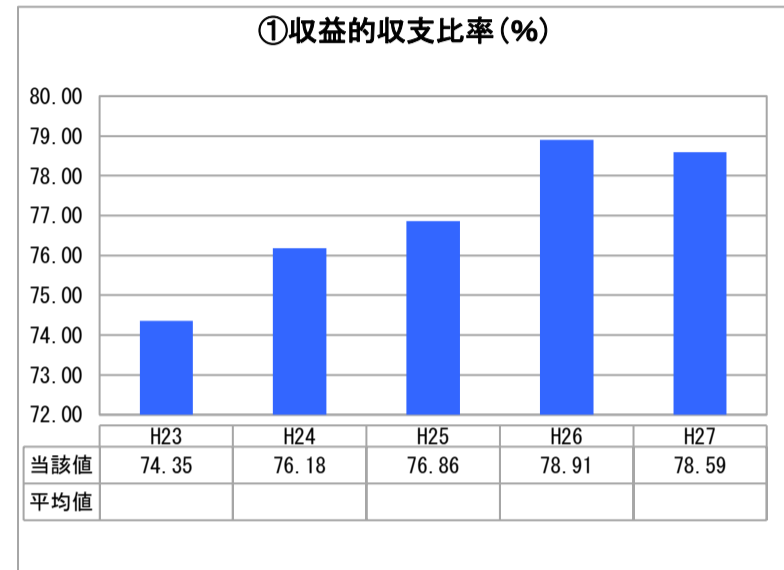
大阪府 河南町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	78.26	96.46

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,857	25.26	627.75
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,388	3.11	3,983.28

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成27年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



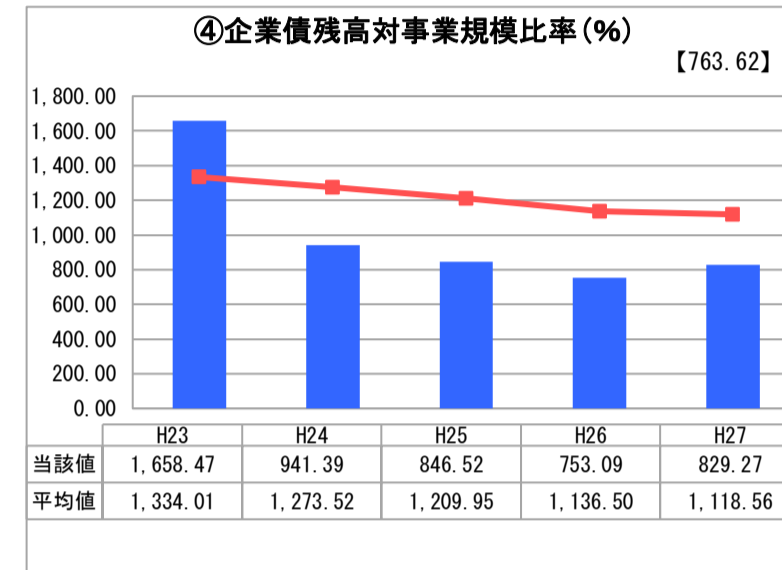
「単年度の収支」



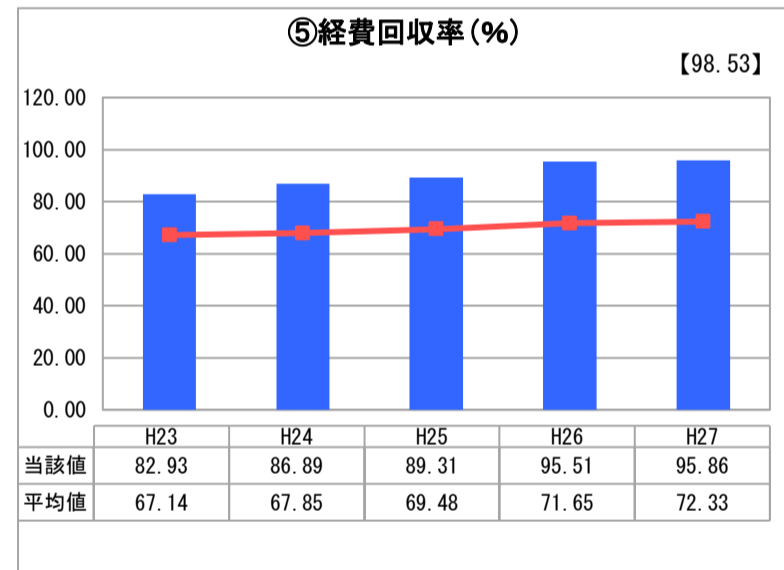
「累積欠損」



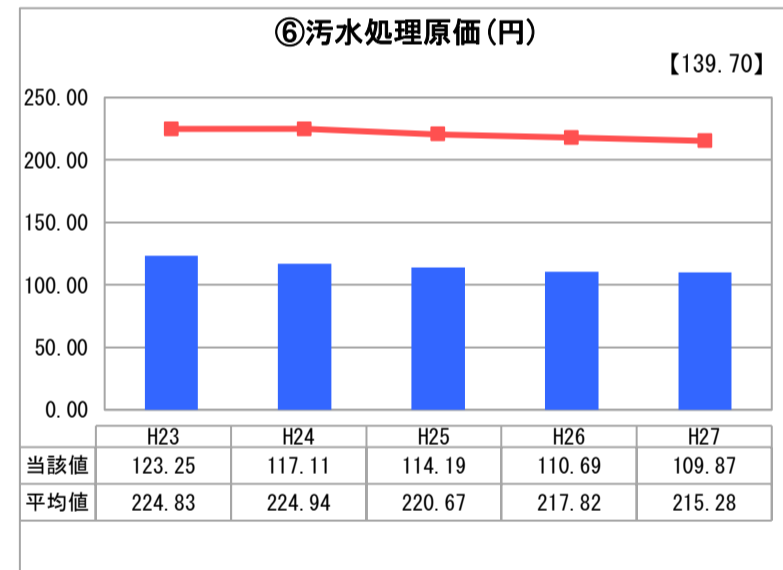
「支払能力」



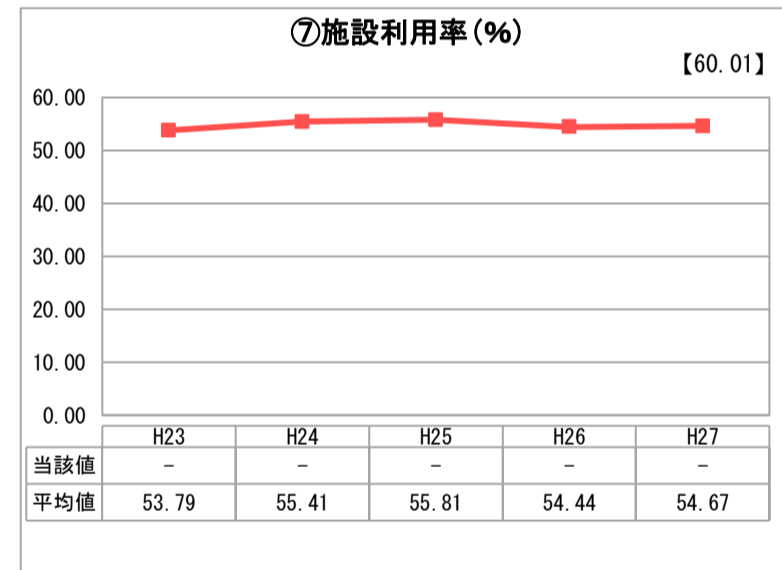
「債務残高」



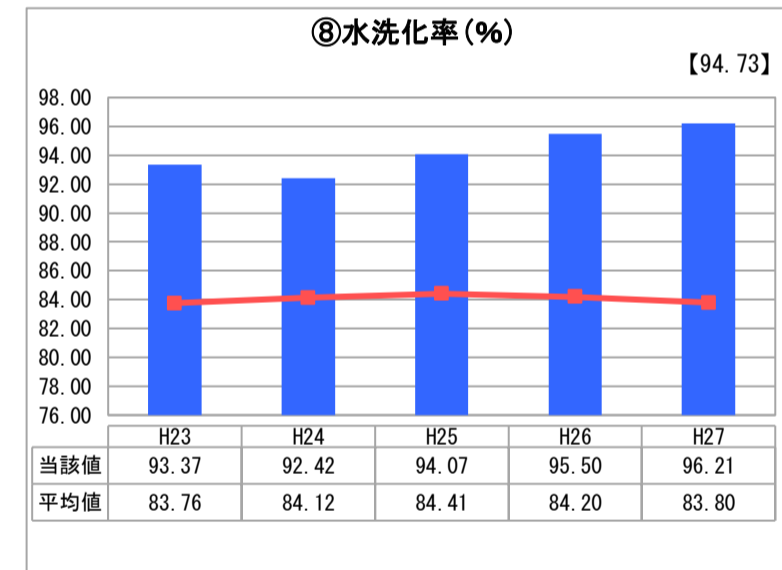
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

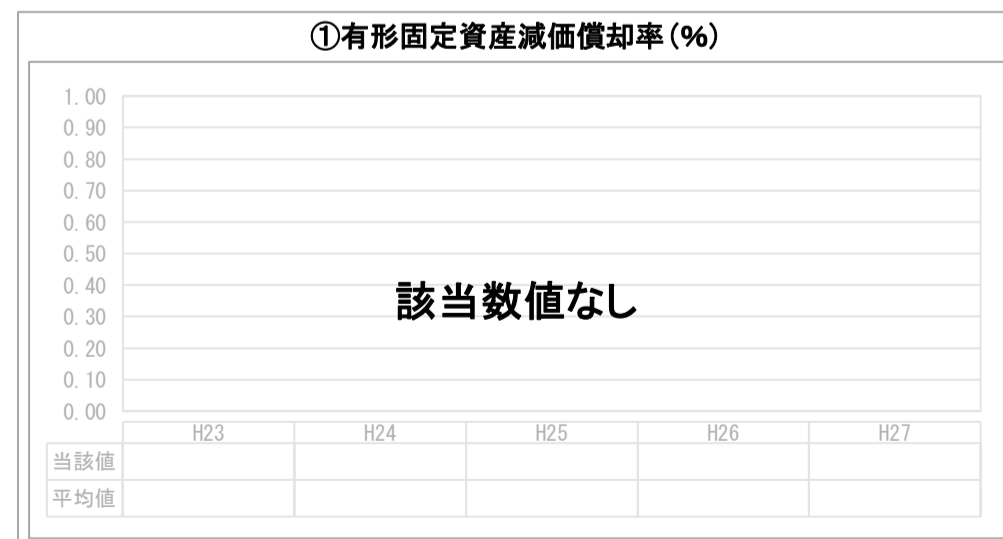


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

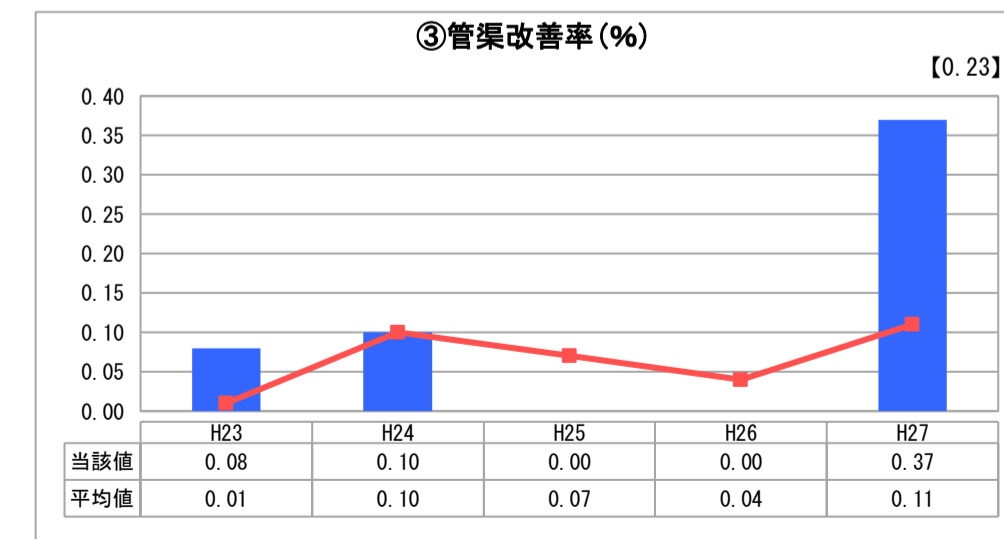
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率については、資本費の増加が続いており現状では100%を下回っている。また、下水道事業の性質上、多額となる投資の世代間負担の公平を図るため資本費平準化債の活用をしている。

企業債残高対事業規模比率については、類似団体と比較して低い数値で推移しているが、今後、長寿命化に係る下水道事業債が増加するため、下水道使用料に対する企業債残高の比率は高まる傾向になる見込みである。

経費回収率については、現在のところ100%を下回っているが、数値は毎年改善しており、類似団体と比較しても高い数値となっているが、現在はマンホールポンプの増加及び修繕費の増加により維持管理費が上昇することが見込まれる。

汚水処理原価については、本町の下水道が独自の終末処理場を有しない流域関連公共下水道なので類似団体と比較して低い数値で推移している。

水洗化率については、100%を下回っているが、供用開始区域における水洗化の促進により数値は毎年改善しており、類似団体と比較しても高い数値となっている。

2. 老朽化の状況について

本町では、昭和63年度から下水道事業に着手したが、民間企業の大規模開発によりコミュニティプラント処理していた区域を公共下水道に接続した地区があり、管布設から45年を経過することから、平成26、27年度に長寿命化計画(Ⅰ期 平成27～31年度、Ⅱ期 平成28～32年度)を策定し、平成27年度から計画的な更新を行っている。

全体総括

本町の公共下水道事業の経営は、平成27年度までは類似団体と比較して、企業債残高対事業規模比率、経費回収率、汚水処理原価より、類似団体と比較して概ね健全で効率のよい経営ができていたといえる。

しかし、使用料以外の収入で賄っている部分があり、維持管理費の増も見込まれるため、今後は公営企業会計の導入を行い効率的な事業運営に取り組んで行く。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。
 ※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。